

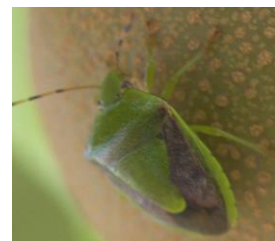
各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## ヒノキ毬果における果樹カメムシ類の寄生状況について

県内の一部地域において、ヒノキ毬果での果樹カメムシ類の寄生数が  
平年より多く、毬果の吸汁が進行しています。吸汁が進めば、毬果が餌  
として不適となるため、地域によっては早期に果樹園へ飛来し、被害を  
及ぼす恐れがあります。

については、下記事項を参考に防除を徹底するよう指導をお願いします。



チャバネアオカメムシ

### 記

#### 1. 調査概況

##### 1) ヒノキ毬果の口針鞘（吸汁跡）数調査

8月1～3日に県内15地点で行った調査では、1毬果当たりの口針鞘数が前回調査時  
（7月19～24日）から急増しており、口針鞘数が20本／毬果に達し、本虫がヒノキか  
ら離脱する際の目安となる25本／毬果に近づいた地点が認められた。（写真1、2、  
図1）。

〔※ 果樹カメムシ類によるヒノキ毬果の口針鞘数が1果当たり25本を超えると、果樹  
カメムシ類がヒノキ毬果より離脱するとされている。〕

##### 2) ヒノキ毬果における寄生数調査（上記と併せて実施）

本虫の寄生数は平年より多くなっており（図2）、地点によっては多数の寄生が  
認められた。

このことから、今後、ヒノキ毬果で増殖した果樹カメムシ類が、早期から果樹園  
へ飛来し、被害を及ぼす恐れがある。



写真1 ヒノキ毬果の様子



写真2 果樹カメムシ類の口針鞘

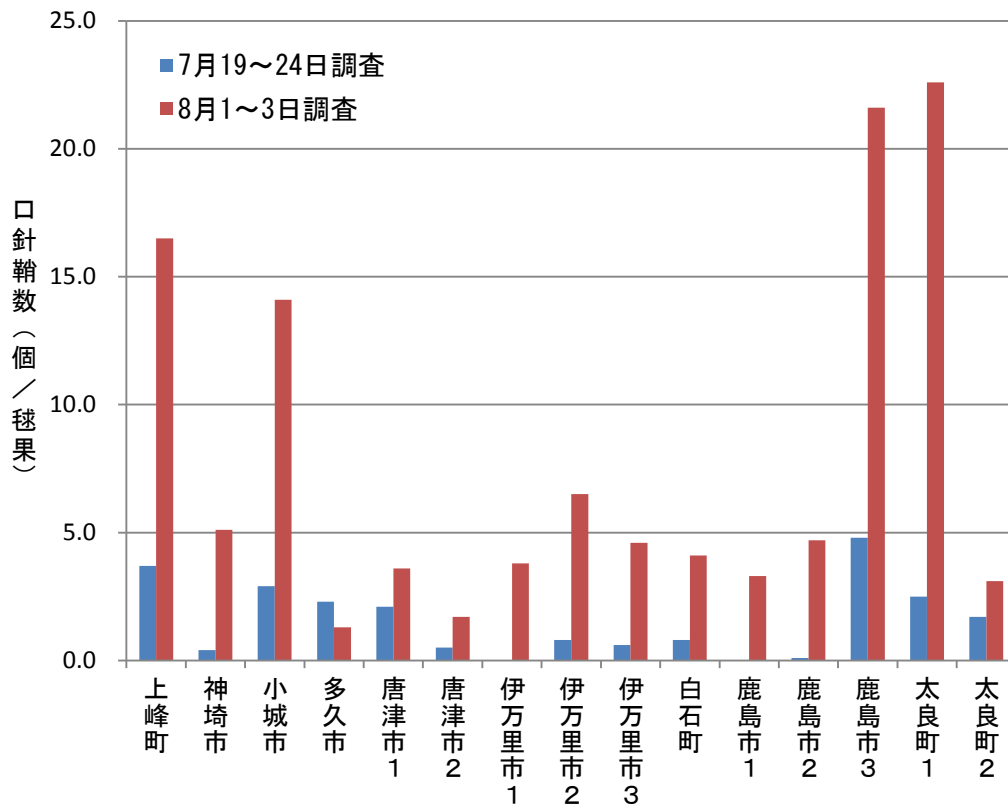


図1 果樹カメムシ類のヒノキ毬果における口針鞘数の推移

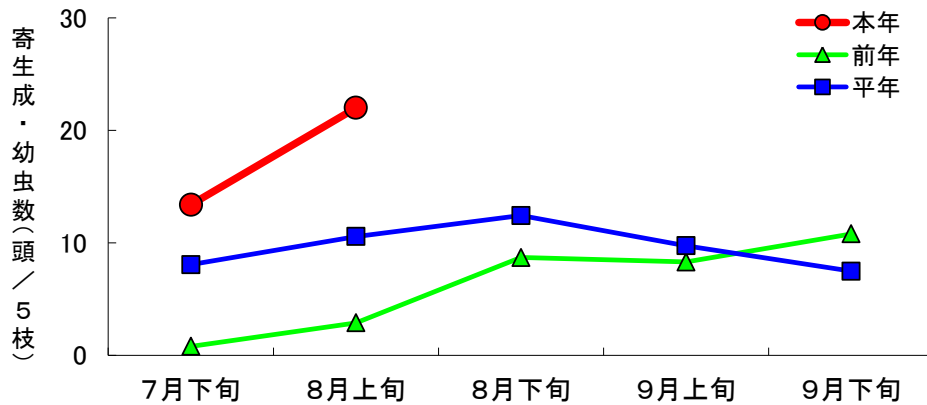


図2 果樹カメムシ類のヒノキ毬果における寄生数の推移  
（県内15地点の平均値）

## 2. 防除対策

- 1) 飛来状況は地域や園地により大きく異なるため、園内外をこまめに見回り早期発見・早期防除に努める。
- 2) 果樹カメムシ類は、果樹園へ侵入した後、集合フェロモンで仲間を大量に呼び寄せ被害を大きくする。このため、果樹カメムシ類の果樹園への飛来を認めたら、早急に防除を実施する（表1）。
- 3) 台風襲来等の強風後は、果樹カメムシ類が果樹園に飛来する恐れがあるので十分に注意する。

- 4) 防風樹であるスギ、ヒノキ、サングジュなどの結実した実は刈り込むなどして除去する。
- 5) 果樹カメムシ類は樹高の高い樹木に一度飛来して、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないように剪除する。
- 6) 施設栽培では、開口部に防虫ネット（4ミ目以下）を設置する。
- 7) 薬剤散布の際は、周辺作物への飛散を防止するとともに、収穫前使用日数及び使用回数等の安全使用基準を遵守する。
- 8) 今後の発生状況については、農業技術防除センターが発表する果樹カメムシ類に関する情報を参考にする(<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>)。

表1 果樹カメムシ類に登録のある主要薬剤

【かんきつ】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	備考
合成ピレスロイド*	テルスター水和剤	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内	かんきつ
	マブリック水和剤20	2,000～4,000倍	収穫45日前まで	2回以内	かんきつ (みかんを除く)
			収穫21日前まで		みかん
	MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	かんきつ
	ロディー乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	4回以内	かんきつ
ネコチノイド*	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	かんきつ

【なし】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
合成ピレスロイド*	アグロスリン水和剤	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	スカウトフロアブル	1,500倍	収穫前日まで	5回以内
	テルスター水和剤	1,000～2,000倍	収穫前日まで	2回以内
	MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内
ネコチノイド*	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

## 【表1の続き】

### 【かき】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
合成ピレスロイド*	アグロスリン水和剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	テルスター水和剤	1,000~2,000倍	収穫14日前まで	2回以内
	MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内
ネオニコチノイド*	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

### 【キウイフルーツ】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
合成ピレスロイド*	アディオン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	5回以内
ネオニコチノイド*	アルバリン顆粒水溶剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	スタークル顆粒水溶剤			
	アドマイヤーフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内

### 【ぶどう】

系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
ネオニコチノイド*	ダントツ水溶剤	2,000~4,000倍	収穫前日まで	3回以内
	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	アルバリン顆粒水溶剤			

※ 登録は平成29年8月8日(火)現在。

※ 農薬を使用する際は、必ずラベルを読んで、使用できる作物であるか、使用濃度、使用量、使用時期は適切か、使用回数は定められた回数を超えていないか等を確認する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
〒840-2205 佐賀市川副町南里1088  
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085